

新居浜工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	101220		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	環境材料工学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	高等学校 新地理A 荒井良雄他著 (帝国書院) / 地図帳 新詳高等地図 (帝国書院)、高等学校 新地理Aノート 新課程用 (帝国書院)					
担当教員	石丸 健					
到達目標						
1. 地球という球体を平面に描く地図の各種の図法と、国土地理院発行の地形図に関する知識をつけ、読図能力を高める。データを地図に描く統計地図を読み取る能力を高める。 2. 地形・気候などの自然環境が生活・文化に影響を与え、各地域独特の特色を形作っていることを認識する。 3. 日本の自然環境と災害について認識を深め、防災に関する知識と関心を高める。 4. 地球規模に拡大した課題の成り立ちと、身近な地域 (アジア・日本・生活地域) の課題に気づき、問題解決のための知識とその方策について、日常生活との関連をふまえて考察する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	経緯度・時差・地図の知識を使った対蹠点・時差の計算、各図法の長所・短所の把握、地形図図法を使った略地図の作成等の応用力がある		経緯度の概念、経度と時差の関係、各図法による方位・距離・形の差異、地形図に関する基本的事項を理解している		経緯度の概念、経度と時差の関係、各図法による方位・距離・形の差異、地形図に関する基本的事項が理解できていない	
到達目標2	地形の形成や気候区の設定と、地球の内的・外的営力との因果関係が把握できており、人間生活との関連が理解できている		地形の形成や気候区の設定の基本的メカニズムを理解し、用語や具体的位置を把握している		地形の形成や気候区の設定の基本的メカニズムの理解や、用語・具体的位置関係の把握が不十分である	
到達目標3	日本の自然環境の特徴と、自然災害との関連が理解できており、起こりうる災害に関する防災意識も高い		日本の自然環境の特徴と、各種の自然災害に関する基本的事項を理解している		日本の自然環境の特徴と、各種の自然災害に関する基本的事項が理解できていない	
到達目標4	人種・宗教・食料・鉱業など世界各地に起こる紛争や、世界規模の環境問題の知識をもち、地域性や歴史的背景に関心を示し、国際社会の変化をふまえて考察できる		人種・宗教・食料・鉱業など世界各地に起こる紛争や、世界規模の環境問題に関心をもち、基本的事項を理解している		人種・宗教・食料・鉱業など世界各地に起こる紛争や、世界規模の環境問題に関心が低く、基本的事項が理解できていない	
学科の到達目標項目との関係						
教養 (D)						
教育方法等						
概要	地球儀や地図から現代社会の姿をとらえ、世界の諸地域の特色を形作った環境条件を理解する。世界の諸地域の生活・文化の特色と各地域間の違いを認識することで、地理的なものの見方や考え方を身につける。					
授業の進め方・方法	講義形式にて行う。					
注意点	地理科目はその科目の特徴によって、現在の地球上の状態 (出来事) も教材ですから、各種メディアからの「地理的情報」にも関心をもって注目して下さい					
本科目の区分						
Webシラバスと本校履修要覧の科目区分では表記が異なるので注意すること。 本科目は履修要覧 (p.9) に記載する「④選択科目」である。						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	地球上の位置と経緯度		1	
		2週	時差と生活		1	
		3週	各種図法		1	
		4週	国家の領域と国境		1, 4	
		5週	日本の領域と領土問題		1, 4	
		6週	結びつきを強める現代世界・貿易		1, 4	
		7週	世界を結ぶ交通・通信		1, 4	
		8週	世界の大地形と人々の生活		2	
	2ndQ	9週	山地と人々の生活		2	
		10週	平野と人々の生活		2	
		11週	海岸地形と人々の生活		2	
		12週	特殊地形と人々の生活		2	
		13週	気候要素		2	
		14週	気候区分		2	
		15週	期末試験		1, 2, 4	
		16週	試験返却		1, 2, 4	
後期	3rdQ	1週	熱帯・乾燥帯の気候と人々の生活		2, 4	
		2週	温帯の気候と人々の生活		2, 4	
		3週	冷帯・寒帯の気候と人々の生活		2, 4	
		4週	世界の環境問題 1		2, 4	
		5週	世界の環境問題 2		2, 4	

		6週	日本の自然環境	3
		7週	自然災害と防災 1	3
		8週	自然災害と防災 2	3
	4thQ	9週	世界の諸地域の姿と課題 1	4
		10週	世界の諸地域の姿と課題 2	4
		11週	世界の諸地域の姿と課題 3	4
		12週	世界の諸地域の姿と課題 4	4
		13週	世界の諸地域の姿と課題 5	4
		14週	世界の諸地域の姿と課題 6	4
		15週	期末試験	2, 3, 4
		16週	試験返却	2, 3, 4

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
			現代社会の 考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0